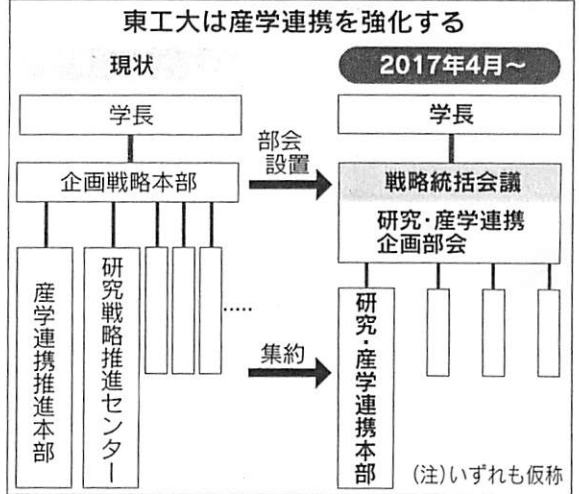


収入を増やし、基礎研究やリベラルアーツ(教養教育)研究の充実につなげる。



学長直属で教育や研究、財務などを統括する現行の企画戦略本部に代えて「戦略統括会議(仮称)」を置く。ここに産学連携の戦略策定や企画を担う専門部会「研究・産学連携企画部会(同)」「産学連携企画部会(同)」を新設する。

専門部会の構成メンバーは担当理事や学部と大学院を一体化した「学院」のトップら20人前後を想定している。企業幹部や専門家ら外部人材3〜5人によるアドバイザリー

戦略統括会議の下には、現行の産学連携推進本部や研究戦略推進センターなどを統合・改組し、「研究・産学連携本部(同)」などを設置する。政府系プロジェクトの研究費獲得支援や知財管理、企業との共同研究案件の開拓といった従来業務を担当する部門に加え、起業家教育やベンチ

インターンで育児体験

津田塾大、パソナと連携



インターンシップの一環で、パソナ社員の家庭で育児体験をする津田塾大生

津田塾大学はパソナと連携し、企業内での研修に加えて共働き家庭の育児も体験できるインターンシップ(就業体験)のプログラムを開始した。共働き家庭が仕事と育児をいかに両立させているかを体験しながら学ぶこと、女子学生に将来のワークライフバランス(仕事と生活の調和)について考えてもらう。

同プログラムはオンラインセッションと体験型講座、インターン、発表会などで構成する。育児体験付きインターンは2回開催。1回目は11月末に実施した。育児体験以外のプログラムに参加する4人を含め、1年生と3年生の合計10人が参加した。

インターンではまず、パソナで会社説明や津田

塾大卒の社員とのキャリア座談会、同社内で保育所を運営するパソナフォスターから子供と接する際の安全管理などのアドバイスを受けた。

その後、学生は3組に分かれてパソナ社員の各家庭を訪問。保育所へ子供の迎えに行き、社員の家で子供と遊んだ。両親からは仕事と育児の両立について話を聞いた。2回目は12月7日に実施を予定している。

インターンの2週間前には開いたオリエンテーションでは「10年後のなりた姿を考える」「自分の軸・強みを見つける」といったテーマで意見を交換した。12月21日には今回のインターンで得た学びを公開形式で発表する。

津田塾大は来年度から4学期制に移行する。6月からの第2学期では必修に拡大する予定。

全寮制新キャンパス

金沢高専、英語で理数教育

学校法人金沢工業大学が運営する金沢工業高等専門学校(金沢市)は2018年4月、石川県白山市の山あい1、2年生向けの全寮制の新キャンパスを開設する。1学年の定員を現在の1200人から90人に減らして少

人数教育を実施。理数科目は全て英語で教え、国際社会で活躍できる技術者の育成を目指す。

3年次には提携しているニュージーランドの国立総合専門学校オタゴ・ポリテクニクに1年間留学する。学生は現地でも



語の理数科目以外でも英語の授業を用意し、海外留学生や帰国子女の受け入れも想定している。金沢高専の山岸徹事務局長は「技術者の世界もグローバルになっていく。国際的に活躍できる人材を育て、日本のものづくりを支えたい」と話している。

金沢高専の新キャンパスのイメージ図

日研 40 30 20 10 0 (注) 進捗は共研研究に加え、16年度から野村総合研究所や楽天、NTTなどが始めた「サイバーセキュリティ」分野に回す循環を作る」と話している。(高城裕太)

拓殖大学は外国語学部の新学科として「国際日本語学科(仮称)」を設ける構想があると発表した。2018年4月の開設を予定する。訪日観光客が増え日本に関心を持つ外国人が増えるなか、日本の文化や強みを海外に発信できる人材を育てる。日本語教員や日本の商材を海外に売り込める社会人などの輩出を目指す。

国際日本語学科を設置

世界から見た日本語の位置づけを学ぶ「国際日本語論」、日本文化を客観的にみる「クールジャパン論」、流行語や若者言葉の状況を拓殖大、18年にも学ぶ「現代日本語事情」などの科目を検討している。1969年から開講している「日本語教師養成講座」の実績が生かせるという。海外留学生が学ぶことも

日本文化発信する人材育成

想定する。文化的背景を踏まえたうえで日本語の正しい文法や語彙などを学べるようにする。将来日本企業への就職を希望する留学生を呼び込む。

1・2年次は八王子国際キャンパス(東京都八王子市)、3・4年次は文京キャンパス(東京・文京)で学ぶ。定員は50人。17年6月末に文部科学省の認可取得を目指す。